

南つるぎ地域活性化協議会と徳島文理大学生の皆さんとシカ防護ネット設置と ジビエ活用を推進

平成30年7月17日
徳島森林管理署

徳島森林管理署では、7月14日、南つるぎ地域活性化協議会と共同で、那賀町西又国有林145林班にシカ防護ネットを設置しました。この活動には、徳島森林管理署、南つるぎ地域活性化協議会、徳島県のほか、徳島文理大学短期大学部生活科学科食物専攻の学生17名を含む、総勢36名の参加がありました。

参加者が分担して、ネットや支柱などを設置現場まで運び、その後、当署職員や南つるぎ地域活性化協議会の指導の下、約1時間をかけて設置しました。学生の皆さんは、シカ防護ネット設置を通じて、シカ被害対策の重要性と大変さを学んでいただけたのではないかと思います。



ネット設置に悪戦苦闘しました



炎天下の中で分担して作業を続けます

昼食後、学生の皆さんは、那賀町のジビエ加工処理施設に移動し、南つるぎ地域活性協議会の平井会長の指導の下、捕獲したニホンジカの解体・処理を行いました。慣れない手つきでの解体でしたが、学生の皆さんは、害獣であるニホンジカをジビエとして利用していくことの重要性を学んでいただけたのではないかと思います。

今回、加工・処理されたニホンジカの肉の一部は、今秋、徳島文理大学の学食で様々な形にアレンジされ提供される予定です。

徳島森林管理署は、南つるぎ地域活性協議会をはじめとする各種ボランティア団体や教育機関等と連携しながら、ニホンジカ被害対策とジビエ活用に積極的に取り組んで参ります。

注：徳島森林管理署と南つるぎ地域活性協議会は、平成29年5月「シカ被害対策推進協定」を締結し、徳島森林管理署が箱罾等の資材を貸し出し、南つるぎ地域活性協議会が国有林内でのシカ捕獲に取り組んでいます。今回、徳島文理大学の学生が解体・処理したニホンジカは、この協定に基づき、南つるぎ地域活性協議会が国有林内で捕獲したニホンジカです。この協定では、捕獲したニホンジカはジビエとして有効活用していくこととしており、既に今年度7頭を捕獲し、その一部についてはジビエとして有効に活用しています。